

学習啓発冊子について

1 概要

子どもでもわかるように漫画やイラストにより、生物多様性について解説し、知ってもらうとともに、尼崎の自然と生き物を地図とセットで紹介し、その場所に応じた生き物との触れ合い方(虫取りの方法など)をイラストで解説することで自然体験を促すものとなっている。

2 記載内容(参考2のとおり)

生物多様性とは(1～2 ページ)

→生物多様性の言葉の意味、生態系、種、遺伝子の多様性について記載。

生物多様性の恩恵(3 ページ)

→基盤サービスや文化的サービスなどについて記載。

生物多様性の危機(4 ページ)

→開発による種の減少(第1の危機)、里山の手入れ不足による種の減少(第2の危機)、外来種による種の減少(第3の危機)、地球温暖化による種の減少(第4の危機)について記載。

わたしたちにできること(5～6 ページ)

→①触れよう…身近な自然・生き物に触れる体験を促す。

②食べよう…地産地消を促す。

③伝えよう…SNS等での発信を促す。

④参加しよう…保全活動等への参加を促す。

⑤選ばよう…環境ラベルのついた商品の購入を促す。

尼崎の自然の成り立ち(7～8 ページ)

→戦前の豊かな農地・水辺環境は戦後の復興、高度経済成長によって喪失したが、その後、公園整備等の取組が行われてきたことを記載。

これからの尼崎(9～10 ページ)

→戦略における将来像を子ども向けに表現を変えて記載。

尼崎の生きもの(11～12 ページ)

→重要種、外来種、指標種について説明及び次ページ以降の「出かけてみよう」パートに掲載される生き物の写真等の見方を凡例として記載。

出かけてみよう(公園・河川・河畔林・農地・水路・運河・海)(13～28 ページ)

→市内の地図とともに、生息・生育している生き物の写真を掲載。また、場所に応じた生き物との触れ合い方(虫取りの方法など)や保全活動の紹介などを記載。

その他尼崎の生き物(29 ページ～)

→「出かけてみよう」のパートに掲載しきれなかった生き物の写真を掲載。

3 活用方法

自然・生き物をテーマとした子ども向けの環境イベントでの配布を想定している。その他、本市ホームページにも掲載し、市民・事業者が自由に印刷・活用できるようにする。